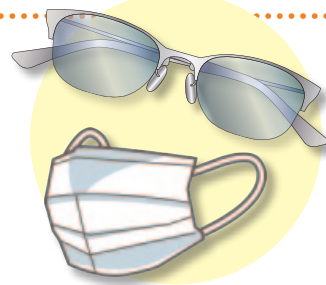


「スギ花粉症」治療最前線



スギ花粉症は、国内で約2,500万人が患っていると言われてます。今回は、スギ花粉症治療の第一人者である千葉大学大学院医学研究院の岡本美孝教授にお話を伺いました。

「スギに限らず、どの花粉症にも共通することですが、まず原因物質である花粉に接触しないことが大切です。マスクやメガネなどを利用し、できるだけ花粉に触れないようにすれば、症状の軽減につながります。

治療法として広く行われているものは、薬を使う方法です。以前は薬の副作用が強く、眠くなったり、口が乾いたりする場合がありますが、現在はかなり改善されて良い薬が作られています。薬効が長くて一日一回の服用で済むものや、鼻つまりやくしゃみといった特定の症状に特に効く薬もあります。花粉症の治療においては、重症化させないことが大事です。薬によって症状をかなりコントロールできるようになったことは大きな進歩だと思います。

薬による治療は、あくまで対症療法ですので、治

療を中止すると再び症状が現れてしまいます。これに対して、アレルギーの原因物質（アレルゲン）を少しずつ注射で投与することによって、体質そのものを改善し、花粉症を完治させるのが免疫療法です。この療法は古くから行われていて、100年以上前にヨーロッパで始まりました。

スギ花粉症でも免疫療法が行われてきましたが、注射時の痛みや長期（最低2年）の通院は患者さんにとって大きな負担であり、近年は治療を受ける方が減っていました。また、重い副作用が起きる場合があるというリスクもありました。

これに代わる手法として最近注目されているのが、アレルゲンを含んだ液体を舌の裏に投与する舌下免疫療法です。こちらも元々はヨーロッパでイネ科花粉症のために開発されたもので、日本でも一昨年に医療保険の対象になりました。注射の痛みがなく、自宅で投与するので通院の負担も減り、また、重い副作用が起きにくい安全な治療法です。

現在、錠剤タイプの薬も開発されつつありますので、これが実用化されれば、薬を冷蔵保存する必要がなくなり、旅行などでの携帯も容易になり、さらに治療が楽になると思います。

理由は不明ですが残念ながら、患者さんの2割から3割には舌下免疫療法の効果がありません。このような患者さんのためにも治療開始前、あるいは直後に効果の有無を判定可能にするべく研究が続いています。

「花粉問題対策事業者協議会」の活動



認証マーク

花粉症問題に取り組む企業や研究機関で構成された「花粉問題対策事業者協議会（JAPOC）」（平成24年設立）では、様々な分野の産官学が協働し、花粉症対策をより効果的・効率的なものとするために各種の活動を行っています。

これらの活動の一つとして、空気清浄機やマスク・メガネといった花粉症対策商品に関する認証制度づくりを進めていて、昨年12月に空気清浄機の認証が開始されました。

この認証を受けるためには、6～8畳の空間で1マイクロメートル以上のアレルギー物質を30分以内に99%以上除去する機能が求められ、現在、2社の製品がすでに認証を取得しています。

今後、花粉症関連の商品に認証マークが明示されることによって、消費者は安心して購入できるようになると期待されます。

